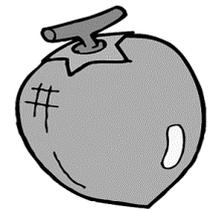




柿栽培技術情報（8月の管理）



令和5年8月1日

宮城県大河原農業改良普及センター

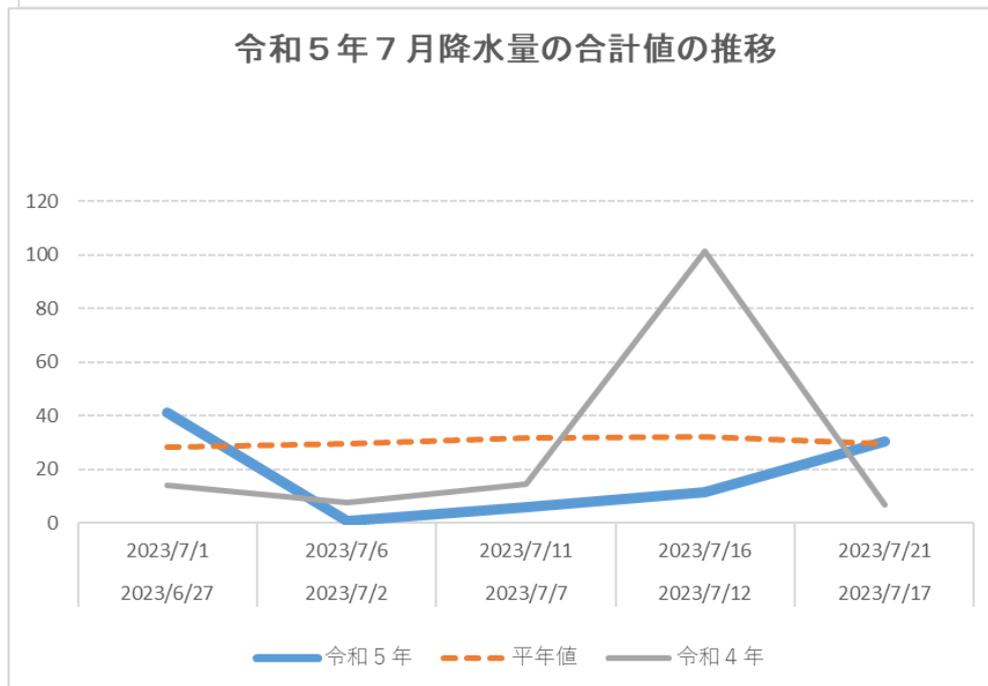
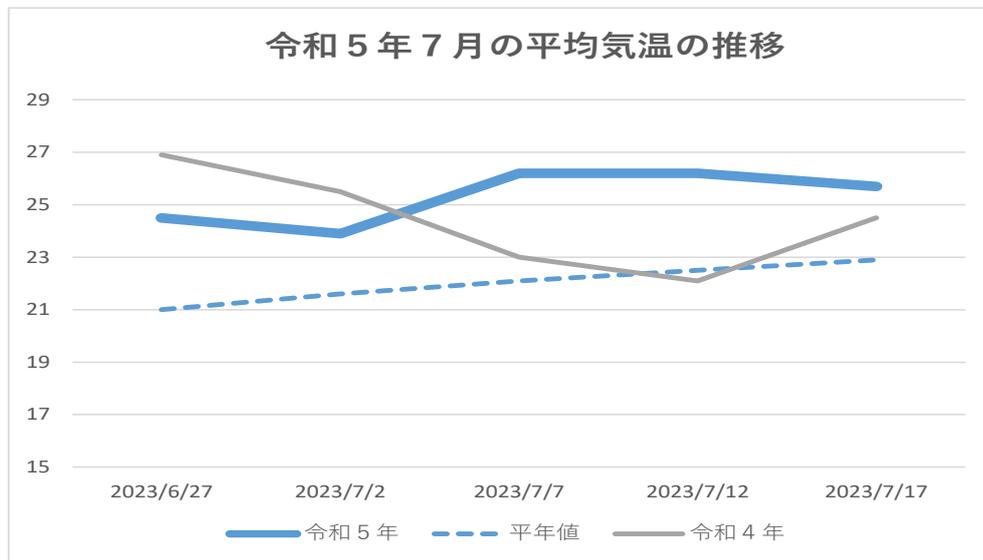
《8月のポイント》

熱中症対策をしっかりと行い作業に臨みましょう。
また、8月下旬から炭そ病の重点防除時期です。

1 気象情報

7月の気象経過

7月上旬は平年と比べて、平均気温が高く推移した一方、雨は少ない期間となりました。しかし、一部地域では8日から10日は梅雨前線が停滞し、強い雨が降った所もありました。7月中旬も気温は高く推移し、雨は平年並みの降水量となりました。また、東北地方は、7月22日ごろに梅雨明けしたもようです。（仙台管区気象台HPより）



2 8月の管理作業

(1) 枝つり、支柱立て

着果の多い樹では、果実の肥大に伴い枝が下垂するため、支柱立て、枝吊りを実施しましょう。樹冠内部の受光条件の改善、枝折れ防止及び防除効果の向上につながります

(2) 夏季せん定

夏季せん定は、貯蔵養分の浪費を防止する、風通しが良好になり効果的な防除が実施できる、着色が向上する等の効果があるので、大きな切り口や樹冠内に発生する徒長枝を枝が柔らかい夏の時期に切除しましょう。

(3) 後期落果について

生理落果には、6月の早期落果と8月中旬～9月中下旬頃におこる後期落果があります。後期落果は、へたを樹に残して果実だけ落ちる特徴があります。

イ 要因

- ・以下の3つの要因が可能性として報告されています。
 - 夏肥の過施肥（愛知県農業総合試験場）
 - 夏の干ばつで根の発育が一時的に停止したのち、8月下旬以降の雨で再び根が伸長を始める際の根と果実の養分競合の結果
 - 長雨による光不足など

ロ 対策

- ・夏季せん定や誘引による樹冠内の光環境の改善
- ・施肥管理により窒素の遅効きなどによる新梢の遅伸びを抑える

3 病害虫の防除

(1) 炭そ病

イ 発病による果実の症状

はじめ黒色小斑点を生じ、その後拡大して中央部濃黒色、健全部との境が不明瞭な円形～楕円形の少しくぼんだ病斑となります。発病した果実は着色が早く、落果します。

ロ 耕種的対策（病斑枝の切除と窒素質肥料の多肥を控える）

- ・新梢の発病を徹底して防ぐことが重要です。樹形が乱れても病斑枝の切除を徹底します。
- ・発病した枝や果実は、園地外で処分します。
- ・枝の軟弱徒長を防ぐため、窒素質肥料の多肥は避けます。

ハ 薬剤防除

- ・炭そ病菌は雨滴で感染するので、薬剤散布のタイミングは降雨前が原則です。ただし、降雨までに薬液が乾く程度の時間は必要です。
- ・重点防除時期は6月上旬～7月中旬、8月下旬～9月中下旬です。



炭そ病にり患した新梢



炭そ病にり患した果実

(2) 落葉病

重点防除時期は7月上旬であり、長い潜伏期間を経て発病するため、8月頃から発病するときは、落葉処理、防除の時期、散布量、薬剤の種類などを検討し、次年度に向け改善します。被害落葉は、土中に埋めるなど適切に処分します。



円星落葉病の柿の病斑



角斑落葉病の秋の病斑

(3) カキノヘタムシガ

- ・ヘタの中心や横に穴を空けて果実内部を食害する害虫です。

イ 被害の特徴

- ・主に結果枝の先端5芽までの葉柄に産卵し、幼虫は葉柄^{*}と芽の間などから食入します。その後、果実へ移動して食害します。
- ・果実への食害は、主に果梗やヘタの部分から行われます。食入部からは虫糞を出しながら、果実内部を食害します。

※葉柄：葉が茎に接する部分。葉の付け根のこと

ロ 防除のポイント

- ・防除時期

6月と8月の成虫（1cm程度の黒っぽい蛾）発生期の1週間後（果実食入前の幼虫をターゲットに）

※年や地域により変動あるので、園地をこまめに見回り、発生を確認することが大切です。



カキノヘタムシガの成虫



カキノヘタムシガ 被害

(4) 果樹カメムシ類

イ 被害等

- ・ 園地外から飛来する害虫のため、園地の周縁部の被害が多い傾向にあります。また、主な繁殖植物はスギやヒノキなどの針葉樹のため、園地周辺にこれらの樹がある場合は特に注意しましょう。昼間、園地内で散見される場合は、多数飛来していると判断されます。

ロ 被害の特徴

- ・ 吸汁された跡は、主に果実の肩の部分にくぼんだ丸い暗緑色でのちに黒色の斑点となります。また、吸汁痕が残ります。
- ・ 幼果期の被害の場合、ヘタを残して落果する果実が多く、それ以降では落果被害は減少しますが、果実に黒色斑点が残ります。この斑点中央部を切ってみると、果肉部が白いスポンジ状になっています。

ハ 防除のポイント

- ・ 飛来初期に薬剤防除を実施します。



チャバネアオカメムシの成虫



クサギカメムシの成虫

4 気象災害に係る技術対策

(1) 高温乾燥対策

- ・ 梅雨明け後、高温乾燥が続いています。刈り草のマルチ等で土壌乾燥を防ぎ、樹勢が低下しないようにします。

(2) 台風対策

イ 事前の対策

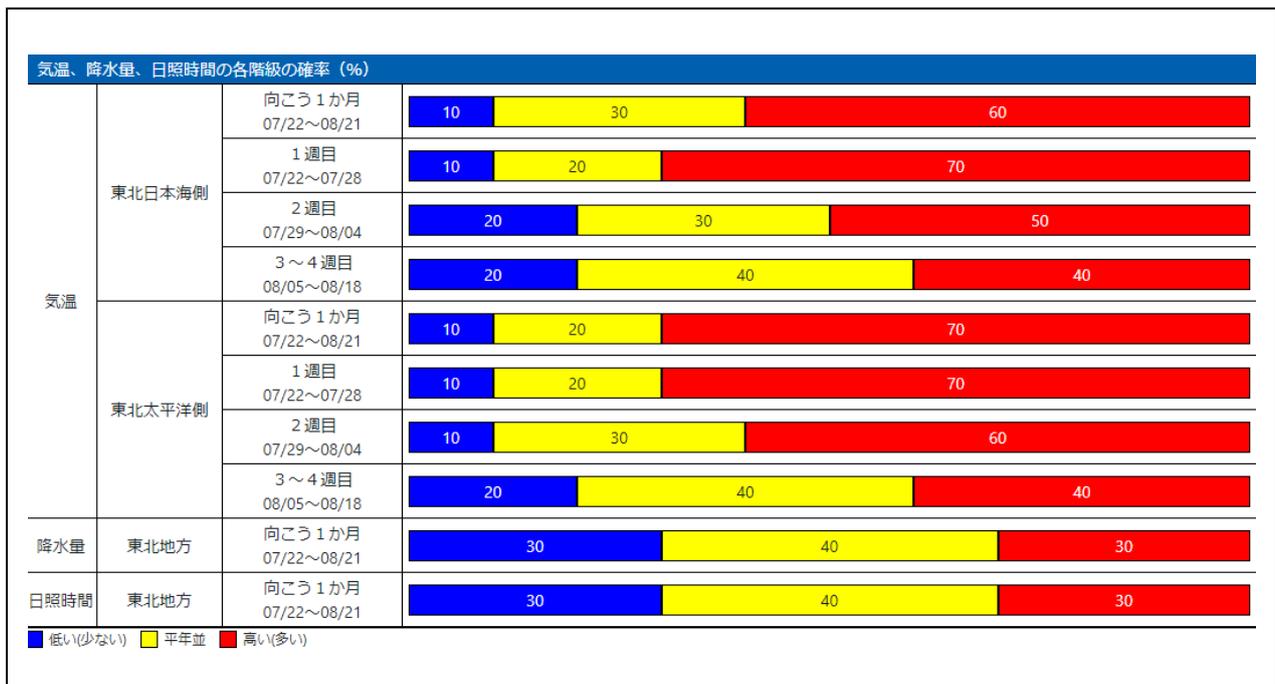
- ・ 強風に備えて樹体を支柱により補強しておきます。
- ・ 排水が速やかに行われるよう園地周辺の排水路の点検、清掃を行います。

ロ 台風被害があった場合の対策

倒伏した場合は、健全な根を切らないようにできる限り早く引き起こし、支柱を添えて固定します。被害により樹勢が弱まっている場合は、薬害が発生しないように留意しつつ病虫害の防除を実施します。

5 今後1か月の気象予報

8月の平均気温は、高い確率が70%となっており、天気は数日の周期で変わるとなっています。(仙台管区气象台HPより)



気温の高い日が続く予報です。
熱中症にならないよう、こまめな水分補給と休憩をとりましょう。

農薬危害防止運動実施中！(6/1~8/31)

農薬による事故を未然に防ぎ、
消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。